



理事長·学長紹介

公立大学法人 熊本県立大学 理事長

しらいし たかし 白石 隆



昭和25年生まれ、文化功労者、哲学博士。専門は地域研究。

東京大学助教授、コーネル大学教授(平成8年)、京都大学東南アジア研究センター教授(平成8年~平成17年)、政策研究大学院大学副学長(平成17年~平成23年)、学長(平成23年~平成29年)を経て、平成30年4月に本法人の理事長に就任。

その他、内閣府総合科学技術会議議員(平成21年~平成23年)、日本貿易振興機構 (ジェトロ)アジア経済研究所所長(平成19年~平成30年)などを歴任。

熊本県立大学 学長

つつみ ひろあき 堤 **裕昭**



昭和31年生まれ、博士(理学)。 専門は海洋生態学 沿岸環境科学。

昭和62年熊本女子大学生活科学部助教授として着任。平成11年熊本県立大学環境 共生学部教授。その後、環境共生学研究科長、環境共生学部長、地域連携・研究推進センター長、副学長を経て、令和4年4月に学長に就任。

その他、日本ベントス学会会長、不知火海・球磨川流域圏学会会長などを歴任。

目次

理事長・学長紹介	1
1 理念・目的	2
2 沿 革	3
3 組 織	4
4 特色ある取組	10
5 学生数、教職員数	14
6 入試状況・入学者の状況	15
7 卒業・修了生数	16
8 進路状況	16
9 研究活動	18
10 地域貢献活動	21
11 国際交流	26
12 財務状況	27
13 大学施設	29
大学暦・交通アクセス 裏表	き紙 しょうしょう かいしょう かいしょう かいしょ かいしょ かいしょ かいしょ かいしょ かいしょ かいしょ かいしょ

理念・目的

地域に生き、世界に伸びる

理念

総合性への志向

本学は、人文・社会・自然の学問の 三分野から成る大学として、学際的 な方法を重視しつつ、総合的な知の 形成を目指す。

地域性の重視

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜し、地域社会に開かれた大学として、当面する諸問題を分析し解決すること、地域の知的創造の拠点となることを目指す。

国際性の推進

本学は、グローバル化に対応して、アジアをはじめ世界の多様な文化を学びつつ、諸外国の人々との交流を進め、国際的・多元的な文化の創造を目指す。

大学の目的(熊本県立大学学則第1条)

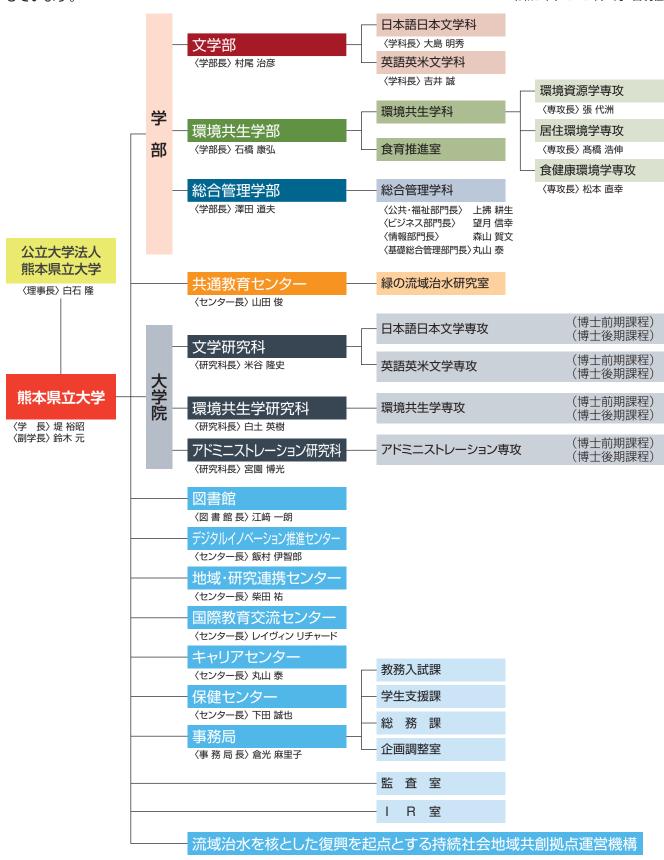
熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とする。

2 沿革

	・専門学校令により 熊本県立女子専門学校創立 (熊本城内)
1949(昭和24)年4月●	
1950(昭和25)年6月	熊本市大江町渡鹿に校舎移転(現:県立劇場敷地)
1953(昭和28)年4月	学部学科名称変更 ▶文家政学部/文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科
1960(昭和35)年4月	学科分割改組 ▶文学科→英文学科、国文学科
1963(昭和38)年4月	学科分割改組 ▶家政学科→家政学科、食物学科
1980(昭和55)年4月	熊本市健軍町水洗(現:月出)に新キャンパス建設学部を文学部、生活科学部の2学部制とし、合わせて学科改組▶文学部/国文学科、英文学科▶生活科学部/食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科
1991(平成 3)年4月	外国語教育センター設置
1993(平成 5)年4月	大学院設置 ▶文学研究科/日本語日本文学専攻(修士課程)、英語英米文学専攻(修士課程)
1994(平成 6)年4月	大学名称を「熊本県立大学」に変更し、全学的に男女共学に移行 学部増設 ▶総合管理学部/総合管理学科 文学部学科名称変更 ▶国文学科→日本語日本文学科 英文学科→英語英米文学科
1997(平成 9)年	大学歌「宙(そら)へ」制定(開学50周年記念事業)
1998(平成10)年4月	大学院研究科増設 ▶アドミニストレーション研究科/アドミニストレーション専攻(修士課程)
1999(平成11)年4月	生活科学部を環境共生学部に改組 ▶環境共生学部/環境共生学科/生態·環境資源学専攻、居住環境学専攻、食·健康環境学専攻
2000(平成12)年4月	大学院博士課程設置 ▶アドミニストレーション研究科/アドミニストレーション専攻(博士課程)
2003(平成15)年4月	大学院研究科増設 ▶環境共生学研究科/環境共生学専攻(修士課程)
2005(平成17)年4月	大学院博士課程増設 ▶環境共生学研究科/環境共生学専攻(博士課程)
2006(平成18)年4月	公立大学法人熊本県立大学へ移行
	対立ステムスポース・アイライ 1
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備
	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講
2007(平成19)年 2008(平成20)年4月 2009(平成21)年4月	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ●文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ●環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科
2007(平成19)年2008(平成20)年4月2009(平成21)年4月	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ▶環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ▶キャリアセンター設置、保健センター設置
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ●文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ●環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ●キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ● 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ● 環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ● キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置(図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ♪ 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ♪ 環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ♪ キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設 大学院博士課程増設 ♪ 文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程)
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置(図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ♪文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ♪環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ♪キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設 大学院博士課程増設 ♪文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学不来基金創設 大学院博士課程増設 ♪文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学CPD(継続的専門職能開発)センター開設 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ▶環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ▶キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設 熊本県立大学未来基金創設 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学CPD(継続的専門職能開発)センター開設 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組 全学教育推進センター設置
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置(図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ● 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ● 環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ● キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設 熊本県立大学表来基金創設 大学院博士課程増設 ● 文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学CPD(継続的専門職能開発)センター開設 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組 全学教育推進センター設置 環境共生学科/環境資源学専攻、居住環境学専攻、食健康環境学専攻環境共生学科/環境資源学専攻、居住環境学専攻、環境共生学科/環境資源学専攻、居住環境学専攻、環境共生学部に食育推進室を設置 学術情報メディアセンターに研究支援部門と情報基盤管理室を設置 地域連携・研究推進センターを地域連携政策センターに改組
2007(平成19)年	附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、学術情報メディアセンター設置 (図書館、語学教育部門、情報教育部門) 地域連携センター設置 ● 包括協定制度整備 協力講座開講 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程) 環境共生学部学科改組 ▶環境共生学科→環境資源学科、居住環境学科、食健康科学科 学生支援組織改組 ▶キャリアセンター設置、保健センター設置 熊本県立大学奨学金創設 熊本県立大学未来基金創設 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学未来基金創設 大学院博士課程増設 ▶文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程) 熊本県立大学CPD(継続的専門職能開発)センター開設 地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組 全学教育推進センター設置 環境共生学部学科/環境資源学専攻、居住環境学専攻、食健康環境学専攻環境共生学部に食育推進室を設置 学術情報メディアセンターに研究支援部門と情報基盤管理室を設置 地域連携・研究推進センターを地域連携政策センターに改組 監査室設置 国際教育交流センターを設置し、語学教育部門を学術情報メディアセンターから移管

3 組織

(1) 大学組織図



(2) 学部学科の概要

文学部

人間は言葉でものを考え、言葉を通して思想・文学を表現し文化を作ります。言語・文学を、そして文化を学ぶことは、人間の本質と生き方を学ぶことにほかなりません。

日本語日本文学科

日本語学・日本文学・日本語教育の3つの領域について教育研究を行います。日本語学では、日本語の音韻、文法、語彙を研究し、日本文学では、各時代の文学作品を研究対象とします。日本語教育では、外国人に日本語を教えるための方法論を研究します。

学生は広く日本語学・日本文学を学んだ上でテーマを絞っていきますが、上記の3領域を基礎として、地域の言語・文化を研究したり、広く東西の言語・文化と関連づけて研究することもできます。

さらに、本学科では、日本語教員養成課程(主専攻・副専攻)を開設しています。これは諸外国の人々に日本語を教える日本語教師を育成する課程です。

取得可能な資格:中学校・高等学校教諭一種免許状(国語)

英語英米文学科

英語学、英文学、米文学、英語教育について教育研究を行います。また、それらの専門教育と併行し、4年間を通して本格的な英語運用能力、すなわち、英語を読む、聞く、話す、書くなどの能力の育成に重点を置き、高度な英語コミュニケーション能力を身につけることを目標にしています。

3年生になると各専門分野に分かれ、少人数のセミナーで一人ひとりが研究テーマを掘り下げます。副専攻として、日本語教員養成課程を開設しています。

取得可能な資格:中学校・高等学校教諭一種免許状(英語)

環境共生 学部



豊かな自然を保ちながら継続的に利用し、その地域に住む人々の快適な生活を確保する方策、すなわち自然環境と人間活動の共生の方策を追求し、「環境共生型社会の創造」を目指します。

環境共生学科 環境資源学専攻

持続可能な社会を創るには、人間活動が水、大気、海洋、森林などの環境資源に与える負荷を少なくし、生態系全体を保全していくことが必要です。この視点に立ち、基礎的な自然科学の知識と理解力を養成します。また、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析評価する能力を養成します。 さらに、フィールドワークなどによる現場実習によって、より実践的な環境科学のエキスパートを育成します。

取得可能な資格:中学校・高等学校教諭一種免許状(理科、家庭)、高等学校教諭一種免許状(農業) 環境計量士受験対応、環境計量士受験対応、公害防止管理者受験対応

環境共生学科 居住環境学専攻

環境共生型社会の視点に基づき、住宅・建築・都市・農山村にいたる居住空間の改善と創造のための教育研究を行っています。さらに、地域文化、地域の多様な資源の有効活用などを重視しながら、居住環境を創造・改善するための計画・デザインの知識と実践的能力を身につけます。

取得可能な資格: 一級建築士受験資格、二級建築士受験資格、中学校・高等学校教諭一種免許状(理科、家庭) 高等学校教諭一種免許状(農業)

|環境共生学科||食健康環境学専攻|

「環境共生」の立場から食を通じた健康の維持・増進や疾病治療に関する教育研究を行います。地域社会の健康増進を目指し、健康増進のための食生活、食資源の開発、食品の加工と安心安全、ライフステージや病態に応じた栄養管理、食育、運動と栄養などの知識と実践力を学びます。

取得可能な資格:栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員・管理者資格 中学校・高等学校教諭一種免許状(理科、家庭)、高等学校教諭一種免許状(農業)

栄養教諭一種免許状

総合管理 学部



行政や企業などの組織を含む地域社会が抱える課題の発見とその解決策を提案し実現すること のできる人材育成を目指します。

総合管理学科

複雑な現代社会で発生する様々な課題の解決には、一つの学問分野だけでのアプローチでは不十分で、学際的・総合的なアプローチが必要です。総合管理(アドミニストレーション)の対象は、現代社会に生じる諸課題の発見、解決のための政策立案、実行、評価に関する理論と実務です。卒業後は、公共・福祉、情報、ビジネス等の分野での活躍が期待されます。

1年次から専門科目(基礎総合管理、基幹)を順次履修し、3年次以降の展開科目では「公共・福祉」「ビジネス」「情報」の3分野から、自分の興味や進路にあわせて広く学習できるように配慮しています。また、1年次から卒業まで一貫して、PBL (Project-Based Learning の略で、「課題解決型学習」と訳されている)など少人数ゼミでのアクティブラーニングを通して、より実践的な思考とスキルを養っています。

取得可能な資格:中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民、商業、情報)

(3) 大学院の概要

■文学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



日本語日本文学、英語英米文学について教授・研究し、地域ならびに国際社会の進展に寄与することを目的として、平成5(1993)年4月に日本語日本文学専攻と英語英米文学専攻の2専攻から成る文学研究科修士課程を設置しました。これを改組して、平成20(2008)年度より日本語日本文学専攻、平成22(2010)年度より英語英米文学専攻に博士前期課程・博士後期課程を設置しました。文学研究科では、それぞれの専攻分野に関する優れた研究能力と専門的職業に必要とされる高度な適応能力の開発を目標としています。深い専門性の追求を通して人間としての叡知を磨き、真贋を見分ける洞察力を培うことで、地域および国際社会の中核となる人材の育成を目指しています。探究心豊かな研究者の養成、高度な専門的知識と創造的な教授能力を備えた中学校・高等学校教員の養成の場として、また、広くは社会人のための再教育の場として、有能な人材を世に送り出すとともに、海外からの優秀な留学生を積極的に受け入れています。また、国内外における日本語学習の需要に応えて、専門家を育成しています。

社会人の受入を効果的に進めるため、昼夜開講制も実施しています。中学校、高校教諭一種免許状 (国語、英語)を有している方は専修免許状を取得することができます。

■環境共生学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



環境共生学部の理念を継承し、さらに総合的、かつ高度の展開をはかるために平成15(2003)年度に修士課程を、平成17(2005)年度には博士後期課程を設置するとともに、修士課程を博士前期課程としました。博士前期課程では学部の3専攻における教育を基礎として、さらに発展させるために2領域4分野を配置しています。これらの4つの研究分野が相互関係を重視しながら「環境共生学」を広く学び、深く研究することを目指しており、現在まで多数の優れた人材を社会に送り出しています。博士後期課程においては、4分野を一つに集約するよう教育の再編成を行い、それぞれの立場から深く研究を行い、「環境共生学」を確立します。平成20(2008)年3月に、初めての博士(環境共生学)が誕生して以来、多数の博士号取得者を輩出しています。

環境共生学研究科の特徴は(1)学部教育を基礎として、総合・発展させた教育研究、(2)フィールドワークを重視した教育研究、(3)実践能力を育成するカリキュラム、(4)社会人が学びやすい 昼夜開講制度、(5)充実した研究設備、などが挙げられます。

中学校、高等学校教諭一種免許状(理科、家庭)を有している方は、専修免許状を取得することもできます。

■アドミニストレーション研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



わが国で初めての、アドミニストレーションを研究対象とする大学院で、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

博士前期課程では、公共・経営、ビジネス、情報、看護の4分野を配置し、多方面からアドミニストレーションの基本概念の修得を目指し、地域社会の要請に応え得る問題発見・解決型の教育研究を実践しています。

博士後期課程では、社会のさまざまな分野で生じる諸課題を高度な知識と判断力によって多角的・総合的に解決するための教育研究を実施するとともに、アドミニストレーションの理論をより一層深化発展させることによって、課題解決の適切さと確実度を高める教育研究を実践しています。

また、社会人に対する高度なリカレント教育の要請に応えるために、昼夜開講制を実施しています。 中学校教諭一種免許状(社会)及び高等学校教諭一種免許状(公民)を有している方は、専修免許 状を取得することもできます。

(4) 各センター等の紹介

共通教育センター

共通教育センターは、各学部・研究科、デジタルイノベーション推進センター、地域・研究連携センター、国際教育交流センター及びキャリアセンター等との連携のもと、共通教育の改善及び充実を図ることを目的としています。

■ 共通教育センターの主な事業

- ●共通教育カリキュラムの編成·管理運営
- ●共通教育の改善·充実に関する事項の企画·実施
- 教職課程の企画・管理



地域・研究連携センター

地域・研究連携センターは、本学の教育研究資源を地域に繋ぐコーディネート機能や、授業公開講座など大学ならではの学びの場を地域に提供する役割を担うとともに、大学の研究力の向上に務め、「地域に生きる」熊本県立大学の地域貢献を推進します。





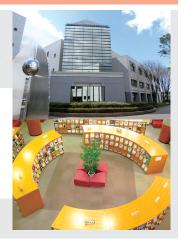


図書館

1階~3階の開架書庫・閲覧スペースには、軽読書コーナーやパソコンコーナーのほか学習のための個別ブースやラーニングコモンズ、グループ学習室も設けており、4階の閉架書庫を含めて学生は自由に利用できます。また、本学ホームページから、当館所蔵図書の検索もできます。

- 蔵 書 数(R5年3月末現在)
 - 図書 約38万冊(うち電子書籍 約1000冊)
- 雑誌紀要数 約6000種

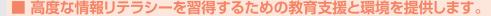
- 購読雑誌数 約220種
- 年間入館者数 約5万6000人(R4年度)
- 年間貸出冊数 約2万2000冊(R4年度)



デジタルイノベーション推進センター

■ デジタルによる教育研究環境の刷新を推進します。

あらゆる情報の分析・活用を通して情報の価値を最大限に高めるとともに、デジタルの力により、革新的で魅力ある教育研究環境を構築します。



大学生活に欠かせないIT活用を支援するため、サポート窓口を運営しています。パソコン・ネットワーク利用に関する相談受付、パソコン・周辺機器の貸出、在学期間におけるOfficeアプリケーションの無償提供、情報処理実習室(パソコン室)の管理・提供を行っています。



本学情報ネットワーク基盤の整備、管理を行っています。また、次世代ファイアウォール等の最新防御対策、セキュリティインシデントへの備えにより安全・安心なネットワーク環境を提供しています。



国際教育交流センター(英語による略称:CIEE)

国際化を更に推進するため、国際教育、国際交流及び語学教育支援等をワンストップで実施する組織として、令和2年(2020年)4月1日に「国際教育交流センター」を設置し、グローバル人材の育成に取り組んでいます。

■ 国際教育の企画・調整

学 部:もやいすとグローバル育成プログラム等の実施支援

(TOEIC®550点以上の学生を対象に、英語運用能力の向上、グローバルな視野

の拡大を目指したプログラムを企画)

大学院:高度グローバル人材育成のための国際協力・貢献活動を終えた者の受入れ支援及

び国際教育・貢献活動を組み込んだ大学院教育の実施支援

■国際交流(P26参照)

■語学教育支援

Global Loungeを開設し、Café Event、対面またはオンラインによる英語チュータリング等を実施。また、全学生を対象にしたTOEIC® 団体試験の実施を支援(年2回)。

キャリアセンター

キャリアセンターでは、各学部等との連携のもと、将来ある学生の資格取得・就職活動等の支援を行っています。

■ キャリアサポート

就職相談員やキャンパス・キャリア・エンジェル(CCA)が、キャリア形成や進路選択のために有益な情報の提供や、就職に関する様々な相談に応じています。

また、各学部に1名、キャリアサポートを担当する教員をキャリアコーディネーターとして 配置しており、キャリアセンター長の下、各学部間で連携をとりながら支援を行っています。

【就職相談員】

経験豊かな専任の就職相談員が、進路相談から企業情報の収集の仕方、自己PRや志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入退室のマナーに至るまで、親身になって支援を行っています。

【キャンパス・キャリア・エンジェル(CCA)】

卒業後の進路が決定した4年生が、自身の学生生活や就職活動を踏まえて、就職活動や進路選択等に関する相談に応じています(相談対応期間は秋期~2月)。この学生たちを、社会と本学学生を接続するという意味で、「キャンパス・キャリア・エンジェル」と呼んでいます。

保健センター

保健センターは、学生が充実した学生生活を送ることができるよう心身の健康 管理を行うとともに、修学上あるいは生活上の様々な悩み事に関する相談業務を 行っています。また、学生のみならず、教職員の健康管理も併せて行っています。

■ 定期健康診断

学生の健康保持・増進を図るため、全学生を対象として定期健康診断を行っています。この健康診断は、学校保健法により定められているもので、自身の健康状態を知り、生活習慣の改善を図るための支援を行うものです。

■ 学生相談体制

保健センターは、センター長のもと、保健師2名、臨床心理士3名により、学生の様々な相談に応じています。

IR室

各種アンケートから得られる、諸情報の集約・管理・分析を通して本学教育活動を評価し、またPROGテストによる学生の自己分析を実施し、リテラシーとコンピテンシー能力の向上を図っています。







(5) 法人組織

平成18年4月に地方独立行政法人法に基づく「公立大学法人」へ移行。

理事、監事を置くとともに、法人の経営の重要事項、大学の教育研究の重要事項を審議するため、学外委員も含む審議 機関(経営会議、教育研究会議)を設置し、法人の運営を行っています。

令和5年5月1日現在

				13/140 1 0/3 1 11/31112
		役	員	
	理事長	白石	隆	
理	副理事長	堤 袝	谷昭	(学長)
	理事	倉光	麻里子	(事務局長)
事	理事	鈴木	元	(副学長)
	理事(任命理事、非常勤)	本松	賢	株式会社テレビ熊本取締役会長
監事	監事(非常勤)	吉川	榮一	公認会計士、税理士
事	監事(非常勤)	本田	悟士	弁護士



経営会議

法人の経営の重要事項の審議

教育研究会議

大学の教育研究の重要事項の審議

	経営会議委	5員
理事長	白石 隆	
副理事長	堤 裕昭	(学長)
理事	倉光 麻里子	(事務局長)
理事(非常勤)	本松 賢	株式会社テレビ熊本 取締役会長
委員	櫻井 一郎	櫻井精技株式会社 代表取締役
委員	古荘 文子	古荘土地有限会社 代表取締役
委員	横田 桂子	熊本県立大学同窓会 紫苑会会長
委員	守田 憲史	宇城市長

	教育研:	究会議委	員
学長	堤 裕	路	
副学長	鈴木	元	
事務局長	倉光	麻里子	
文学部長	村尾	治彦	
環境共生学部長	石橋	康弘	
総合管理学部長	澤田	道夫	
共通教育 センター長	山田	俊	
地域・研究連携 センター長	柴田	祐	
デジタルイノベーション 推進センター長	飯村	伊智郎	
国際教育交流 センター長	レイヴィン	ノリチャード	
委員	内村	公春	学校法人九州 ルーテル学院長
委員	松下	純一郎	株式会社熊本日日 新聞社 調査役
委員	岩本	修一	熊本県公立高等学 校長会会長

特色ある取組

(1) もやいすと育成システム

事業概要

本学では、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、地域に根ざしながら世界を見据える人材の育成に努めています。 その人材養成の目的を表す概念として、「もやいすと」という用語を用いています。この「もやいすと」の「もやい(舫い)」とは、もともと船を相互に繋ぐことを意味し、人と自然と地域社会とを再構築する「もやい直し」という言葉に由来しています。

「もやいすと育成プログラム」では、熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、 "地域づくりのキーパーソン"として、地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材(もやいすと)の育成を目指します。

「もやいすとグローバル育成プログラム」では、地域課題に柔軟に対応し、グローバルな視点を持って活動できる学生の育成を目指します。

育成プログラムもやいすと

もやいすとジュニア

もやいすと(地域)ジュニア育成 もやいすと(防災)ジュニア育成

もやいすとシニア

もやいすとシニア育成

もやいすとスーパー

地域連携型学生研究(旧「学生GP」)、 地域志向研究等

地域志向科目·地方創生科目(共通·専門)

カリキュラム外の地域活動

1年次

Entry Training

2・3年次

3・4年次

もやいすと』

育成

(英語教育)Moyaist Global Training I,Ⅱ,Ⅲ Moyaist Global

> (国際教育)Kumamoto Studies もやいすとシニア(グローバル)育成

> > グローバル実践活動 交換留学

共通教育・専門教育におけるグローバル科目

育成プログラム

令和4年度実績

●平成29年度にカリキュラム体系外の学習成果までを含めスタートした「もやいすと評価制度」を令和4年度も継続し、「もやい すとスーパー」が6名誕生しました。

(関係団体:熊本県、八代市、芦北町、人吉市、あさぎり町、坂本町など)

●令和4年9月、3年生6人がカンボジアの政府機関・民間企業・NGOで約1ヶ月間インターンを経験しました。



あさぎり町 くま川鉄道の施設見学 永江友二社長の講話



あさぎり町 くま川鉄道の施設見学と 人吉市 ひまわり亭での防災食づくり 坂本町 道の駅坂本での施設見学と



坂本町 道の駅坂本での施設見学と 道野真人駅長の講話



カンボジア・プノンペン Preah Norodom primary schoolで 折り紙の授業を実施

(2) 緑の流域治水

事業概要

令和2年7月豪雨の発生後、熊本県からの要請を受け、学内に「緑の流域治水研究室」を設置しました。(令和3年4月)令和3年10月からは、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)の採択を受けた研究プロジェクト(「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」地域共創拠点)を開始。本学は、このプロジェクトの代表機関であり、地域に生きる大学として、被災地の復興と球磨川流域の持続的発展に寄与していきます。

球磨川流域の持続的発展を目指す研究開発課題

この研究プロジェクトは、「緑の流域治水を核とした、大災害後も安全・安心に住み続けられ、豊かな環境と若者が残り集う、持続可能な地域の実現」を地域ビジョンとして掲げ、以下の4つをターゲットとする5つの研究課題を設けて研究活動を行っています。

緑の流域治水を核とした大災害後も安全・安心に住み続けられ、

地域ビジョン 豊かな環境と若者が残り集う持続可能な地域の実現 地域ビジョンからのターゲット 研究課題 研究開発課題1:治水技術研究 水害に安全・安心な地域 「緑の流域治水」技術の開発 研究開発課題2:環境·計画研究 2 豊かな環境と恵みのある暮らし ボトムアップ型統合計画と環境再生 研究開発課題3:DX研究 若者が残り集う地域 DXにつながるスマート流域治水、 安全避難システムの実施 多世代共創による 研究開発課題4:產業創生研究 「緑の流域治水」の達成 「緑の流域治水」と連動した サステイナブルな産業創生 研究開発課題5:パートナーシップ研究 パートナーシップによる 「緑の流域治水」の推進

「緑の流域治水」とは?

流域全体を対象に、ハード面だけでなく、ソフト面での対策も充実させる治水対策を「流域治水」といいます。流域内のすべての場所を対象とするため、地域との協働により実施することが求められます。「緑の流域治水」は、この対策に環境的な観点を盛り込み、持続的な地域づくりや環境保全にもつなげる治水対策です。



実験棟と実験水路



地域でつくる防災 IoT (住民と一緒に河川カメラを設置)



南稜高校の雨庭 (生徒と共に設計・施工)



地域共創拠点 ホームページ

(3) 地域連携型学生研究(旧「学生GP」)

事業概要

地域連携型学生研究制度とは、地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、 それを学生が地域連携型学生研究として取り組むものです。

学生は、地域が抱える問題に卒業研究などとして取り組むことで、社会人としての演習の場になり、実社会における知識活用のあり方、コミュニケーション力、問題分析・解決力などを会得していきます。

※令和4年度より名称が「学生GP(地域連携型卒業研究)」から「地域連携型学生研究」に変わりました。



公開審査会

令和4年度実績

	連携先企業・団体	学部	担当教員	研究テーマ
1	熊本市役所都市建設局 都市政策部市街地整備課	環境共生学部	鄭 一止	「月出長嶺エリア」における都市政策とまちづくりにつ いて
2	一般社団法人 玉名観光協会	総合管理学部	津曲 隆	玉名市観光業活性化に向けた地域特性の調査と分析 そして活性化策の具体化
3	玉名市役所観光物産課	総合管理学部	津曲 隆	玉名市公式ゆるキャラ「タマにゃん」と玉名市観光PR 動画を活用した効果的な情報発信
4	大津町商業観光課	総合管理学部	井田 貴志	ふるさと納税制度を利活用した観光地域づくりの方 向性について
5	熊本市役所市営住宅課 ·住宅政策課	環境共生学部	佐藤 哲	熊本市営住宅の環境評価と今後の活用に関する研究
6	一般財団法人熊本市 国際交流振興事業団	総合管理学部	宮園 博光	熊本市の若者の国際交流推進に向けた事業開発
7	株式会社ジェイコム九州 熊本局(J:COM熊本)	総合管理学部	宮園 博光	2050年度ゼロカーボンに向けた県民運動(家庭で実践できる取組み)の啓発広報
8	宇土市役所 まちづくり推進課	総合管理学部	高濵 信介	SNSを使った広報の効果的実践について
9	熊本市役所 自転車利用推進課	総合管理学部	高濵 信介	自動車通勤から自転車通勤への転換
10	天草市役所	総合管理学部	井寺 美穂	若者へ効果的に企業情報を提供する仕組みに関する 一考察 ーデザイン思考の観点からのアプローチー
11	宇土市役所	環境共生学部	柴田 祐	マイクロツーリズムとしての「宇土の小さな旅〜uto small trip〜」の開発
12	熊本市役所	環境共生学部	柴田 祐	熊本市南区における新たなまちづくりの担い手の発 掘及び育成手法の検討

(4) 食育推進室

事業概要

文学部、環境共生学部、総合管理学部の3学部からなる本学では、前身の熊本女子大学から続く食と健康に関する人材育成や研究開発の実績に加え、郷土料理など食文化の保護・発信、マーケティングや政策的視点からの地域の食資源の開発をおこなっています。この実績を活かし、平成30年度には「地域の食資源を基に、本学学生の食と健康に関する理解を深め、食生活を通して健康を自己管理できる人材を育成する」こと、さらに「専門的知見を有する人材を育成し、地域の食に関する課題解決」をめざし、新たな「熊本県立大学食育ビジョン」を策定しました。

本ビジョンは、健康を自己管理できる人材を育成する「人材育成」、食育・健康・食資源に関する調査・研究開発を推進する「研究開発」、健康的な食生活を整える「食環境改善」の3つのアクションからなり、食に関する体験研修や講義、イベントなど様々な取組を実施しています。

令和4年度実績

3つのアクション	取組内容
人材育成	・食育を実施する学生グループ「たベラボ」を募集し、週に1回、昼休みの時間にワークショップ及び料理教室等を、様々な学内・学外団体と連携して対面で実施・人吉市、および熊本市内鮮魚店において食育の日地域研修を実施・熊本農業高校生活科の授業に参加して食育の日のメニューを検討・毎月1回学食において「食育の日」を実施し、たベラボメンバーが地域研修を通して開発したオリジナルメニューを提供・「くまもと食育ガイドブック」を使った講義を実施(10~1月:毎週月曜日、新熊本学:熊本の生活と環境)・令和4年度(2022年度)熊本県立大学公開講演会「噛むことから始める健康講座~食育・健康フェスティバル2022~」を実施・学生グループSalVege(規格外野菜普及を通じて地域創生を目指す)と連携し、若い世代(小学生)への規格外野菜の認知を広めることを通し、講師として学生が学ぶ機会とした講演会を実施・令和4年度地域と学生をつなぐ交流会(県大マルシェ)にお米作りサークルみくまり(流域治水・湿地保全を食育を切り口の一つとして活動中)と連携して参加
研究開発	・本学全学生を対象とした食生活調査を実施し、現在までの食育効果を検証 ・学生食生活調査の教育的活用を「新熊本学:熊本の生活を環境」にて検証
食環境改善	・学食の弁当に、不足しがちな野菜をスープで補足する「ベジチャージ@学食キャンペーン」を実施・図書館等での展示(年4回) ・鶴屋保育所の給食監修と乳幼児とその保護者への食育推進(年間通して) ・BMI30以上の希望学生を対象に「学生対象特定保健指導(PUK'Sダイエットチャレンジ)」を実施







学生数、教職員数

(1) 学生数

学部生2,108名、大学院生89名の総計2,197名が在籍しています。

学部】

【学部】															숙	3和5年	5月1	日現在
		1 🛎	山で広							<u> </u>	学生数	Į						
学部名	学科名	入学 定員	拟合 完昌	1	年次	7	2	2年次	7	9	3年次	7	4	1 年次	7		合計	
		是 英		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	日本語日本文学科	45	180	13	35	48	15	36	51	11	37	48	13	41	54	52	149	201
文学部	英語英米文学科	45	180	13	35	48	15	41	56	10	38	48	16	43	59	54	157	211
	計	90	360	26	70	96	30	77	107	21	75	96	29	84	113	106	306	412
	環境共生学科	110	440	37	75	112	36	89	125	33	81	114	39	72	111	145	317	462
	(うち食健康環境学専攻)	(40)	(160)	(3)	(37)	(40)	(1)	(43)	(44)	(0)	(40)	(40)	(1)	(40)	(41)	(5)	(160)	(165)
環境共生学部	環境資源学科			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
塚児六工子叩	居住環境学科			0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5	3	2	5
	食健康科学科			0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1
	計	110	440	37	75	112	36	89	125	33	81	114	43	74	117	149	319	468
総合管理学部	総合管理学科	280	1,120	136	170	306	139	173	312	124	158	282	161	167	328	560	668	1,228
心口旨注于印	計	280	1,120	136	170	306	139	173	312	124	158	282	161	167	328	560	668	1,228
学	学部合計	480	1,920	199	315	514	205	339	544	178	314	492	233	325	558	815	1,293	2,108

[※]環境共生学部学科改組により、環境資源学科、居住環境学科及び食健康科学科については募集停止。

【大学院】

令和5年5月1日現在

				र्गच हुन						学生	E数					
研究科名	専攻名	課程	入学 定員	収谷	1	年次	7	2	2年次	7	3	3年次	7			
			企 只	化 只	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	日本語日本文学専攻	博士前期課程	5	10	2	1	3	1	5	6				3	6	9
	口平品口本义子等以	博士後期課程	2	6	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	2
文学研究科	英語英米文学専攻	博士前期課程	5	10	0	2	2	1	2	3				1	4	5
		博士後期課程	2	6	1	0	1	2	0	2	1	2	3	4	2	6
	計	14	32	3	3	6	4	8	12	1	3	4	8	14	22	
	環境共生学専攻	博士前期課程	20	40	6	7	13	5	11	16				11	18	29
環境共生学研究科		博士後期課程	3	9	2	1	3	4	2	6	7	2	9	13	5	18
	計		23	49	8	8	16	9	13	22	7	2	9	24	23	47
アドミニストレーション	アドミニストレーション	博士前期課程	12	32	6	3	9	2	6	8				8	9	17
研究科	専攻 計	博士後期課程	2	10	0	0	0	0	0	0	2	1	3	2	1	3
ነ// ታኒሳተ		14	42	6	3	9	2	6	8	2	1	3	10	10	20	
	大学院合計		51	123	17	14	31	15	27	42	10	6	16	42	47	89

[※]アドミニストレーション研究科の収容定員の欄には、令和5年度からの入学定員変更を踏まえ、各年次の入学定員の合計値を記載。

【総計】

男 女 計 857 1,340 2,197 39.01% 60.99%

(2) 教職員数

教員90名、事務職員36名により大学の運営を支えています。

令和5年5月1日現在

37,5-200	ш,	, –	- 奶~概要というです。																- 1	JAHC	, T	J/J I	Н-	ルユ							
					文	学	部								環境	竟共	生学	部					総合管理学部			共通教	焴セン	ノター		合	
		_								環境共生学科														_							
	日本文字科 关木文字科						計		環境資源学 専 攻		居住専			食健康環境学 専 攻		計			総合管理		'埋 科	里 共通教		有 一		計					
職位/性別	IJ	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教 授		5	0	5	3	1	4	8	1	9	8	0	8	5	1	6	4	2	6	17	3	20	13	2	15	1	0	1	39	6	45
准教授		4	2	6	1	3	4	5	5	10	2	0	2	1	1	2	2	4	6	5	5	10	11	5	16	2	1	3	23	16	39
講師		0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
助教		0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	2	1	1	2	0	0	0	2	3	5
助手		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		9	2	11	5	5	10	14	7	21	10	0	10	6	2	8	6	8	14	22	10	32	25	8	33	3	1	4	64	26	90

[※]学長を含まない。副学長を含む。

	事務局	図書館	デジタルイノベーション推進センター	地域・研究連携センター	国際教育交流センター	合計
事務職員	27	2	3	2	2	36

[※]事務局には、理事長及び事務局長を含まない。

総計126名

入試状況・入学者の状況

(1) 令和5年度入試状況

令和5年度入学者選抜においての志願者数(学部)は全体で1,797名でした。 なお、一般選抜の志願倍率は、文学部3.7倍、環境共生学部4.9倍、総合管理学部3.7倍でした。

【学部】

学部		学科・専攻	年度	募集人員			一 般	選抜					選 抜	特	入学者数		
1 пр		子们" 等以	十戊	券集人貝	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	競争率	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	志願者数	受験者数	合格者数	八子有奴
			3	45	40	181	4.5	128	2.7	48	_	_	_	10	10	5	50
	日	本語日本文学科	4	45	40	211	5.3	152	3.2	47	_	_	_	8	7	5	49
			5	45	40	154	3.9	105	2.2	47	_	_	_	18	18	6	47
			3	45	38	182	4.8	84	1.5	55	_	_	_	10	10	7	48
文 学 部	英	語英米文学科	4	45	38	220	5.8	127	2.4	52	_	_	_	14	14	8	54
			5	45	38	136	3.6	78	1.6	50	_	_	_	8	8	7	48
			3	90	78	363	4.7	212	2.1	103	_	_	_	20	20	12	98
		計	4	90	78	431	5.5	279	2.8	99	_	_	_	22	21	13	103
			5	90	78	290	3.7	183	1.9	97	_	_	_	26	26	13	95
			3	30	27	149	5.5	80	2.4	34	_	_	_	7	7	5	32
		環境資源学専攻	4	30	27	202	7.5	99	3.3	30	_	_	_	10	10	4	33
			5	30	27	173	6.4	84	2.4	35	_	_	_	11	10	4	31
	環	居住環境学専攻	3	40	32	137	4.3	79	2.3	35	18	18	4	9	9	5	43
	境		4	40	32	237	7.4	148	4.4	34	16	16	4	10	10	4	41
環境共生学部	共		5	40	32	157	4.9	76	2.2	35	27	26	4	14	14	5	41
○K 90 / ⊥ 1 H	生	食健康環境学専攻	3	40	36	153	4.3	87	2.1	41	_	_	_	22	22	4	40
	学		4	40	36	156	4.3	99	2.4	41	_	_	_	21	21	5	44
	科		5	40	36	138	3.8	68	1.7	40	_	_	_	20	19	4	40
			3	110	95	439	4.6	246	2.2	110	18	18	4	38	38	14	115
		計	4	110	95	595	6.3	346	3.3	105	16	16	4	41	41	13	118
			5	110	95	468	4.9	228	2.1	110	27	26	4	45	43	13	112
			3	280	180	1091	6.1	666	3.1	217	173	173	50	75	75	52	292
総合管理学部	総	合管理学科	4	280	180	905	5.0	558	2.5	222	191	190	50	84	84	50	295
			5	280	180	659	3.7	428	1.9	225	190	190	51	92	92	50	306
			3	480	353	1893	5.4	1124	2.6	430	191	191	54	133	133	78	505
合		計	4	480	353	1931	5.5	1183	2.8	426	207	206	54	147	146	76	516
			5	480	353	1417	4.0	839	1.9	432	217	216	55	163	161	76	513

【大学院】

K													
研 究 科	専 攻			博士	前 期 課	程				博士	後期課	程	
柳 先 科	界 以	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	年度	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
		3	5	2	2	2	2	3	2	0	0	0	0
	日本語日本文学専攻	4	5	7	7	5	5	4	2	1	1	1	1
文学研究科		5	5	4	4	3	3	5	2	0	0	0	0
义子 切 先 件		3	5	3	3	2	2	3	2	1	1	1	1
	英語英米文学専攻	4	5	2	2	2	2	4	2	2	2	2	2
		5	5	2	2	2	2	5	2	0	0	0	0
		3	20	11	11	10	10	3	3	5	5	5	5
環境共生学研究科	環境共生学専攻	4	20	15	15	15	15	4	3	6	6	6	6
		5	20	17	16	15	13	5	3	0	0	0	0
アドミニストレー	アドミニストレー	3	20	4	4	4	4	3	4	0	0	0	0
ション研究科	ション専攻	4	20	5	5	5	5	4	4	0	0	0	0
ノョン切先件	ノコノ等以	5	12	9	9	9	9	5	2	0	0	0	0

[※]令和5年度の博士後期課程の数値には秋入学分を含めていない(本概要発行時点で選抜試験実施前のため)。

(2) 令和5年度 学部入学者の状況

令和5年度入学者(学部)は、熊本県出身者が79.9%となっています。

学科別・入学者内訳の推移

, r.v., r	-	HI 10 (-21)																					
					令	和3年	芰					令	和4年	芰					令	和5年	芰		
学部		学科・専攻	入学							入学 者数							入学 者数						
7-00		于111 子以	者数	男	性	女	性	熊本県	内出身	者数	男	性	女	性	熊本県	内出身	者数	男	性	女	性	熊本県	内出身
			(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
** ** **	E	本語日本文学科	50	12	24.0	38	76.0	22	44.0	49	14	28.6	35	71.4	26	53.1	47	13	27.7	34	72.3	32	68.1
文学部	3	英語英米文学科	48	10	20.8	38	79.2	28	58.3	54	14	25.9	40	74.1	37	68.5	48	13	27.1	35	72.9	35	72.9
	環境	環境資源学専攻	32	18	56.3	14	43.8	23	71.9	33	16	48.5	17	51.5	28	84.8	31	19	61.3	12	38.7	29	93.5
環境共生学部	共生学科	居住環境学専攻	43	16	37.2	27	62.8	31	72.1	41	15	36.6	26	63.4	23	56.1	41	15	36.6	26	63.4	14	34.1
	学科	食健康環境学専攻	40	0	0.0	40	100.0	16	40.0	44	1	2.3	43	97.7	15	34.1	40	3	7.5	37	92.5	21	52.5
総合管理学部		総合管理学科	292	133	45.5	159	54.5	232	79.5	295	125	42.4	170	57.6	256	86.8	306	136	44.4	170	55.6	279	91.2
合		計	505	189	37.4	316	62.6	352	69.7	516	185	35.9	331	64.1	385	74.6	513	199	38.8	314	61.2	410	79.9

[※]志願倍率=志願者数/募集人員、競争率=受験者数/合格者数 ※一般選抜の合格者数には追加合格を含まない。 ※特別選抜には、学校推薦型選抜、社会人選抜、帰国子女選抜、私費外国人留学生選抜を含む。 ※数値は編入学試験、再入学試験を含まない。

7

卒業・修了生数

開学からの卒業生総数は20、584名となっています。

		学	部				大	学	院		
	文学部	環境共生	総合管理	合計	文学研	开究科	環境共生	学研究科	アドミニストレ-	ーション研究科	合計
	又子即	学 部	学 部	ロ前	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	
令和4年度	88	112	298	498	5	0	9	1	7	0	22

※令和5年3月卒業生数(令和4年度9月卒業生は含まず)

■開学からの卒業生総数 20,584名

 内訳
 熊本県熊本女子専門学校卒(昭和24年度卒~昭和25年度卒)
 137名

 熊本女子大学卒(昭和27年度卒~平成5年度卒)
 7,611名

 熊本県立大学卒(平成6年度卒~令和3年度卒)
 12,332名

 熊本県立大学卒(令和4年度卒)
 3月卒前掲
 498名

9月卒6名合計20,584名

※総数に大学院修了生数882名は含まない。

平成6年度~令和3年度修了 857名 令和4年度 3月修了(前掲) 22名 9月修了 3名 合 計 882名

8

進路状況

(1) 進路状況

本学の令和4年度就職率は98.1%となっています。

【学部生の過去3カ年の進路状況】

令和5年5月1日現在

					令	和2年	度					令	和3年	度					令	和4年	度		
			文学	∮部	環境	共生	学部	総合管 理学部		文学	≠部	環境	共生:	学部	総合管 理学部	•	文学	≄部	環境	共生	学部	総合管 理学部	
			日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専	総合管理学科	合計	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻	総合管理学院	合計	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻	総合管理学科	合計
			科	枓	攻	攻	攻	枓		科	料	攻	攻	攻	科		科	枓	攻	攻	攻	朴	
		卒業者総数	43	45	27	42	40	284	481	47	45	32	30	41	278	473	42	46	31	39	42	298	498
\ <u>\</u>		1 就職希望者	37	37	22	33	38	252	419	41	30	19	22	35	244	391	34	38	18	29	38	258	415
路	内	決定者	35	34	21	32	38	244	404	40	28	19	22	35	237	381	32	36	18	28	38	255	407
進路状況		就職率(%)	94.6	91.9	95.5	97.0	100.0	96.8	96.4	97.6	93.3	100.0	100.0	100.0	97.1	97.4	94.1	94.7	100.0	96.6	100.0	98.8	98.1
//	訳	2 進学者	2	1	4	4	1	4	16	2	3	6	4	6	2	23	4	3	4	6	2	5	24
		3 留学その他	4	7	1	5	1	28	46	4	12	7	4	0	32	59	4	5	9	4	2	35	59

(2) 就職状況

就職決定者のうち半数以上が熊本県内に就職しており、地域に貢献する人材を多く排出しています。業種別に見ると、官公庁、サービス業に多く就職していることが特徴です。

【学部生の過去3カ年の就職状況】

令和5年5月1日現在

							2	令和	2年月	麦					-	令和公	3年月	复					-	令和4	4年月	麦		
					文学	全部	環境	共生	学部	総合管 理学部			文学	学部	環境	共生:	学部	総合管 理学部			文学	学部	環境	共生	学部	総合管 理学部		
					日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻	総合管理学科	合計	割合	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専攻	総合管理学科	合計	割合	日本語日本文学科	英語英米文学科	環境資源学専攻	居住環境学専攻	食健康環境学専	総合管理学科	合計	割合
				.LLI							000	70 F0/							000	74.00/					攻		200	75 70/
	九	台上		州本	26	25	15	18	24	185 151	293 218	72.5%	32	21	14	18 7	26	172	283	74.3%	25	21	16	18	30	198	308 231	75.7%
	内訳	熊石		岡	16 5	16	10	12	13	22	46	54.0% 11.4%	17	15	11	3	13	133	196 45	51.4% 11.8%	19	14	15	12	16 6	155 29	47	56.8% 11.5%
地	訳	<u>福</u> そ	の	他	5	5 4	1	2	5	12	29	7.2%	11	2	0	8	5	16	43	11.0%	4	5 2	0	2	8	14	30	7.4%
地域別就	関	ζ	- 07	東	6	4	4	8	8	43	73	18.1%	4	7	4	2	8	50	75	19.7%	4	11	2	4	6	37	64	15.7%
就	近			畿	2	4	2	3	1	8	20	5.0%	3	0	1	2	0	5	11	2.9%	0	2	0	6	2	5	15	3.7%
職状況	中	<u>'</u>		部	0	0	0	3	0	6	9	2.2%	1	0	0	0	0	3	4	1.0%	2	0	0	0	0	4	6	1.5%
況	中	玉	• 匹	国	1	1	0	0	5	2	9	2.2%	0	0	0	0	1	7	8	2.1%	0	1	0	0	0	9	10	2.5%
///	北	海泊	道・東	北	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	1	1	0	0	0	1	3	0.7%
	外			国	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	1	1	0.2%
		合	計		35	34	21	32	38	244	404	100.0%	40	28	19	22	35	237	381	100.0%	32	36	18	28	38	255	407	100.0%
	建		設	業	2	0	2	13	0	13	30	7.4%	0	0	2	10	0	14	26	6.8%	0	2	1	20	0	14	37	9.1%
	製		造	業	5	5	4	3	7	24	48	11.9%	2	2	8	2	10	6	30	7.9%	0	3	8	1	7	18	37	9.1%
	電	気		ス	0	0	0	0	0	2	2	0.5%	1	0	0	0	0	0	1	0.3%	0	1	0	1	0	2	4	1.0%
	運	輸		信	6	3	2	2	0	36	49	12.1%	1	4	0	1	1	36	43	11.3%	1	12	3	1	0	32	49	12.0%
業	卸	小		1)	4	10	3	2	8	20	47	11.6%	8	5	1	3	7	29	53	13.9%	4	5	0	0	2	16	27	6.6%
業種	金			険	3	3	0	2	0	37	45	11.1%	1	6	1	0	0	23	31	8.1%	6	2	0	0	0	30	38	9.3%
別就	不		動	産	0	1	0	2	0	6	9	2.2%	2	0	0	2	0	10	14	3.7%	1	1	0	1	0	9	12	2.9%
就職	医	療	・福 「ご	祉	1	0	1	1	8	19	30	7.4%	1	1	0	0	9	16	27	7.1%	4	0	1	0	18	14	37	9.1%
状況	サ	_	ビ	ス	4	5	3	5	8	27	52	12.9%	10	2	3	3	4	46	68	17.8%	3	5	1	1	4	47	61	15.0%
沈	教		国	育	7	5 2	1	1	0	15	20	5.0%	7	1	1	0	0	3	16	4.2% 1.8%	7	0	2	2	3	16	31 12	7.6%
	公		_ <u>串</u> _ 県		1	0	2	0	2	23	28	6.9%	2	0	2	0	1	18	23	6.0%	1	0	0	0	0	28	29	7.1%
	務	市	_ <u>宗_</u> 町	村	2	0	1	0	3	18	24	5.9%	1	2	0	1	1	29	34	8.9%	4	0	1	1	3	21	30	7.1%
	そ		<u></u> の	他	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	3	2	0	0	0	3	8	2.1%	0	1	0	0	1	1	3	0.7%
		合	計		35	34	21	32	38	244	404	100.0%	40	28	19	22	35	237	381	100.0%	32	36	18	28	38	255	407	100.0%
L	十二				(大部代·			久仁			-	Q日本	-						301	55.570								55.570

[※]就職率=決定者数/就職希望者数 ※各年度3月卒業生数、9月卒業生は含まず

【大学院生の過去3カ年の就職状況】

令和5年5月1日現在

					令和	和2年	度					令者	和3年	度					令	和4年	度		
			文学研	T究科	環境共 研究		アドミニ ション		^	文学研	#究科	環境共 研究		アドミニションは		^	文学研	T究科	環境共 研究		アドミニ ション		
			博士	博士	博士	博士	博士	博士	合	博士	博士後	博士	博士	博士	博士	合	博士	博士	博士	博士	博士	博士	合
			士前期課程	士後期課程	士前期課程	博士後期課程	士前期課程	博士後期課程	計	博士前期課程	後期課程	博士前期課程	士後期課程	士前期課程	士後期課程	計	士前期課程	士後期課程	博士前期課程	博士後期課程	士前期課程	士後期課程	計
	,	修了者総数	1	0	19	1	5	0	26	7	1	8	3	2	0	21	5	0	9	1	7	0	22
維	一舟	设·外国人入学者数	1	0	19	1	3	0	24	7	1	7	2	1	0	18	5	0	9	1	1	0	16
路	社内	会人入学者数	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	0	6	0	6
ൃ	۲	就職希望者数	1	0	14	0	2	0	17	4	1	5	2	0	0	12	3	0	8	1	1	0	13
沉	N	決定者数	1	0	14	0	2	0	17	4	1	5	2	0	0	12	3	0	8	1	1	0	13
	訳	就職率(%)	100.0%	0	100.0%	0	100.0%	0	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0	0	100.0%	100.0%	0	100.0%	100.0%	100.0%	0	100.0%
		進学留学希望者数	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3	1	0	1	0	0	0	2

9

研究活動

(1)地域おこしスタートアップ事業

地域貢献を目的に、地域の課題解決のための調査・研究に本学教員と自治体等が協働で取り組んでいます。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実施団体数	13 (県:1 市町村:12)	11 (県:1 市町村:10)	17 (県:3 市町村:14)

	学部	職名	教員名	研究テーマ	自治体
1	環境共生学部	教授	辻原 万規彦	世界遺産﨑津の漁村集落としての景観を支える背景や環境に関する研究	天草市
2	環境共生学部	准教授	友寄 博子	機能性成分分析に基づいた菊芋の生産・加工法の適正化の検討	菊池市
3	総合管理学部	教授	高濵 信介	菊池市における新たな公共交通サービスの調査研究事業	菊池市
4	環境共生学部	教授	柴田 祐	菊池市内の集落点検を踏まえた将来推計	菊池市
5	総合管理学部	教授	高濵 信介	被災地における地域コミュニティ活性化に関する調査研究事業	人吉市
6	環境共生学部	教授	柴田 祐	令和2年7月豪雨からの被災市街地の復興まちづくりの検討	人吉市
7	環境共生学部	准教授	友寄 博子	勤労者における野菜の積極的な摂取による健康効果ならびに健康意識改善効果	合志市
8	環境共生学部	准教授	鄭 一止	若者の居場所づくりとネットワーク化	玉名市
9	環境共生学部	教授	松添 直隆	若者が元気なまちづくり	玉名市
10	環境共生学部	教授	松添 直隆	棚田で活躍する雑草抑制ロボット開発に関する研究	山都町
11	総合管理学部 環境共生学部	准教授 准教授	石橋 賢佐藤 哲	木工照明ワークショップと体験型照明アートによるお祭りでんでん館への誘客事業	八代市
12	環境共生学部	教授	柴田 祐	坂本地区における景観を活かした復興まちづくりの検討	八代市
13	環境共生学部	助教	中下 千尋	湯島大根の特性の解明	上天草市
14	総合管理学部	教授	上拂 耕生	空き家の利活用による地域密着型の場づくりと人材育成 一域内外の若者の力を結集した持続可能な地域づくり一	多良木町
15	環境共生学部	准教授	小森田 智大	大規模なアサリの資源量データを活用した覆砂の適地選定方法の開発	熊本県
16	総合管理学部	教授 准教授 准教授	澤田 道夫 松本 千晴 小薗 和剛	若い女性の県外転出要因分析調査	熊本県
17	環境共生学部	教授	松添 直隆	クリの消費拡大のための食味・成分評価並びに栗の加工品の開発	熊本県

(2)外部資金による研究(令和4年度実績)

外部資金による研究(当該年度中の契約締結及び採択決定分+継続分)

(単位:件、千円)

	受託研究	·共同研究	科学研究費	貴助成事業	公募型助成	金·補助金等	教育研究學	運励寄附金	合	計
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
令和2年度	32	13,473	40	50,440	22	22,103	5	2,700	99	88,716
令和3年度	34	20,872	44	54,679	19	66,337	6	2,570	103	144,458
令和4年度	41	35,447	46	49,203	22	96,119	7	3,471	116	184,240

受託		新規契	約締結	前年度か	ら継続分	合	計
受託研究		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
•	令和2年度	19	13,473	13	0	32	13,473
共同研究	令和3年度	21	20,872	13	0	34	20,872
究	令和4年度	31	35,447	10	0	41	35,447

科学		新規契	約締結	前年度か	ら継続分	合	計
研究		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
費品	令和2年度	11	20,020	29	30,420	40	50,440
費助成事業	令和3年度	9	23,910	35	30,769	44	54,679
業	令和4年度	11	21,450	35	27,753	46	49,203

公募		新規契	約締結	前年度か	ら継続分	合	計
公募型助成金		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
	令和2年度	15	22,103	7	0	22	22,103
補助金等	令和3年度	10	63,101	9	3,236	19	66,337
金等	令和4年度	15	15,670	7	80,449	22	96,119

教育研		新規契	約締結	前年度か	ら継続分	合	計
研究		件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
究奨励	令和2年度	5	2,700			5	2,700
寄附	令和3年度	6	2,570			6	2,570
金	令和4年度	7	3,471			7	3,471

①令和4年度内訳(科学研究費助成事業を除く)

(単位:件、千円)

		新規契約締結		前年度から継続分		승 計	
	相手先	件数(件)	金額(千円)	件数(件)	金額(千円)	件数(件)	金額(千円)
	民間企業	17	18,750	7	0	24	18,750
	財団法人	1	400	0	0	1	400
	県、市町村	8	7,987	0	0	8	7,987
受託研究·共同研究	協議会など	2	0	0	0	2	0
	大学、研究機関等	1	-530	3	0	4	-530
	その他	2	8,840	0	0	2	8,840
	計	31	35,447	10	0	41	35,447
	民間企業	3	1,000	0	0	3	1,000
	省庁	1	4,680	2	79,299	3	83,979
公募型助成金·補助金等	財団法人	8	9,318	5	1,150	13	10,468
	県、市町村	3	672	0	0	3	672
	計	15	15,670	7	80,449	22	96,119
	民間企業	5	2,845			5	2,845
教育研究奨励寄附金	NPO法人	1	326			1	326
秋月 ¹⁰ 八天 古門 並	財団法人	1	300			1	300
	計	7	3,471			7	3,471

②令和4年度科学研究費助成事業內訳

研究種目別の件数・金額

研究種目	件数	金額(千円)
基盤研究(B)	5	20,733
基盤研究(C)	33	24,310
若手研究	5	2,730
若手研究(B)	2	0
研究活動スタート支援	1	1,430
計	46	49,203

[※] 各項目の数値は、表示単位未満を四捨五入したものであり、 その内訳は合計と一致しない場合があります。

※令和4年度研究課題一覧

研究種目	研	70 10 20		研究課題名
基盤研究 (B)	学 部 環境共生学部	教授	松添 直隆	クエン酸+鉄溶液を利用した土壌伝染性病害「青枯病」の防除法の開発
基盤切丸 (D) 	環境共生学部	教授	張代洲	サイン酸 で
基盤研究 (B) (R3からの繰越し>	環境共生学部	教授	張代洲	黄砂の生物化学組成の同定とその大気放射収支へ及ぼす影響の解明
基盤研究 (B)	環境共生学部	教授	小林淳	対して 対し
基盤研究 (B)	共通教育センター	准教授	難波 美和子	現代インドの英語文学:インド社会の変容とグローバル化のはざまで
基盤训え (D) 基盤研究 (C)	文学部	教授	新水 天仙 J 鈴木 元	日午市加島家資料の総合的研究
基盤研究 (C)	文学部	教授	米谷 隆史	日本語史研究から見る南部藩領の修験道文献に関する基礎的研究
基盤研究 (C)	文学部	教授	米谷 降史	近世東北の写本辞書に見える地域性の諸相に関する研究
基盤研究 (C)	文学部	教授	大島明秀	近代熊本の歴史家が収集した和本・蘭書コレクション
基盤研究 (C)	文学部	教授	吉井誠	潜在意味解析モデルを用いた語彙学習の予測と妥当性の検証:多量のインプットの役割
基盤研究 (C)	文学部	教授	吉井 誠	オンライン読解教材における個人化した注の効果に関する検証
基盤研究 (C)	文学部	教授	ロ弁 誠 R·S レイヴィン	
基盤研究 (C)	文学部	教授	村尾治彦	Advancing written corrective feedback: developing and testing a support site for writers
基盤研究 (C)	文学部	准教授	小川・晋史	日本語の構文ネットワークを基盤とした事態認知モデル
基盤研究 (C)	文学部	准教授	羽鳥隆英	
			柴田 祐	
基盤研究 (C) 基盤研究 (C)	環境共生学部環境共生学部	教授 教授 教授	未四 柏 辻原 万規彦	住民組織による地区レベルの復興まちづくりプロセスの共通フレームの定立
基盤研究 (C)	環境共生学部	教授	阿草 哲郎	地下水ヒ素汚染地域における大気ヒ素汚染とヒトへの曝露影響
基盤切丸 (C) 基盤研究 (C)	環境共生学部	教授	一宮 睦雄	型下がこ系/7条地域にのける人丸に系/7条とこ下への藤路影響 黒潮の生産力を向上させる黒潮分岐流域の低次生産構造
	環境共生学部	教授	松崎弘美	環境調和型の高性能バイオプラスチックを合成する水素細菌の分子育種
基盤研究 (C) 基盤研究 (C)	環境共生学部	教授	松崎、公美	環境調和室の同性能バイオプラスデックを口成する水系和国の力工育権 特性が異なる身体活動の選択的認知機能改善効果とその作用を修飾する食品成分の解明
基盤研究 (C)	環境共生学部	准教授	小森田 智大	干潟で大増殖するホトトギスガイ(二枚貝・イガイ科)を支える餌供給過程の解明
基盤研究 (C)	環境共生学部	准教授 准教授	阿南 弥寿美	天然セレン化合物の水銀との相互作用および水銀解毒効果の解明
基盤研究 (C) 基盤研究 (C)	環境共生学部 環境共生学部	准教授	友寄 博子 坂本 達昭	経口摂取可能なインスリン代替機能性成分の実用化に向けた研究
基盤研究 (C)	環境共生学部	准教授	城平 建四 吉田 卓矢	生活出来に守いすこうの科達人イルと自己自た感を同める良文振に関する美証的別式
基盤研究 (C)	環境共生学部	助教	GH	図は月減州の月減時にに反映的360 建動が与える影響が探討
基盤研究 (C)	総合管理学部	教授	小泉和重	非合併小規模山村自治体の財政パフォーマンスの変化
基盤研究 (C)	総合管理学部	教授	上拂耕生	東アジア圏域における行政法の共通法理の形成とその課題に関する研究
基盤研究 (C)	総合管理学部	教授	望月信幸	業種別 BCP と MCS に関する研究
基盤研究 (C)	総合管理学部	准教授	河西 卓弥	M&A と研究開発に関する実証分析
基盤研究 (C)	総合管理学部	准教授	本田・圭市郎	廃棄物政策による国際貿易および企業行動への影響に関する実証的研究
基盤研究 (C)	総合管理学部	准教授	安武綾	在宅認知症高齢者と介護家族のソーシャルサポート獲得ICT支援プログラムの評価
基盤研究 (C)	総合管理学部	准教授	松本 千晴	難病セルフヘルプグループの運営が安定するネットワークとは?
基盤研究 (C)	総合管理学部	准教授	岩見麻子	無柄とルグベルググルーグの連名が女足するネッドグーグとは? 地域における気候変動適応策の実施状況と構造の把握
基盤研究 (C)	共通教育センター	教授	津曲 隆	和たな地域志向教育のための大学生の地元就職決定要因の定量的研究
基盤研究 (C)	共通教育センター	准教授	作四 隆 青木 朋子	利にない。以応问教育のにめの人子主の心儿就職次定委囚の定量的切え 把握運動における道具使用の有無と課題難易度の観点からみた利き手形成機序の解明
基盤研究 (C)	共通教育センター	准教授	石井佳世	常識的見解の功罪をふまえた DV 支援活動の啓発—DV に対する一般常識の把握を通して
若手研究	総合管理学部	准教授	西森 利樹	高級的見解の切罪を加まれたロック技術型の合光一ロッに対する一般高級の指揮を通じて 低所得者に対する成年後見支援のあり方一公的後見制度の導入可能性一
若手研究	総合管理学部	准教授	石橋賢	
若手研究	総合管理学部	准教授	松本 千晴	大行人住在によるプーラ脳動室の配色と言葉の相互を探手法とプリイン文法への心用 地域難病患者会を核とした災害時にも対応できるネットワークの構築
若手研究	総合管理学部	講師	関智弘	地域無例患有云を核とした火吉時にも対応ときる不サドラークの構架 生活保護政策の実施主体の選択に関する研究
	一般の管理子部 共通教育センター			
若手研究 		准教授 准教授	原統子	Participatory Filmmaking as a New Pedagogy: Enhancing Active Learning and Global Competence
	総合管理学部	准教授	三田 知実	衣料産業におけるグローバルな都市間分業一持続的都市成長の原動力― (伝泡下の誤嚥リスクを低減するための至適直空調理プロトコールの開発
若手研究(B) 	環境共生学部		中嶋名菜	低温下の誤嚥リスクを低減するための至適真空調理プロトコールの開発 はいます。
研究活動スタート支援	環境共生学部	助教	田尻 絵里	非肥満若年女性の体組成・食生活習慣が代謝異常性脂肪性肝疾患 MAFLD に及ぼす影響

[※] 職名は採択当時のもの

地域貢献活動

(1) 生涯学習

① 授業公開講座

地域の方々に学習の機会を提供することを目的として、大学の正規の授業を公開し、本学学生と一緒に 受講する制度です。(平成2年度~)

■ 講 座:教養科目、言語・文学、環境・栄養学、経済・法律・行政学・IT等

● 受講資格: 18歳以上の方

受講期間:前期(4月~7月)、後期(10月~2月)、通年(4月~2月)

● 受 講 料:1講座につき、半期(週1回) 5,000円、通年(週1回) 10,000円 半期(週2回) 10,000円、通年(週2回) 20,000円

しかし、新型コロナウィルス感染予防のため、令和2年度以降対面での授業公開講座を休止しています。 そこで、新しい取組として「オンライン授業公開講座」を実施しています。

■ 講 座:言語・文学、環境・建築・健康、経済・法律・行政学・IT等

● 受講資格: 18歳以上の方で、受講規約に同意した方。

● 受講方法: Microsoft Teams を利用したオンデマンド受講

受講期間: 夏期(7月~10月)、冬期(12月~3月)

● 受 講 料:1講座につき 5,000 円

【受講状況】

年次	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4
講座数(前期・通年)	83	81	83	76	58	63	49	_	_	_
講座数(後期)	88	77	67	65	51	50	46	_	_	-
講座数(オンライン)	-	_	-	_	_	_	_	9	24	31
講座数計	171	158	150	141	109	113	95	9	24	31
申込者数(延べ)	517	480	401	374	249	216	225	295	50	92
受講決定者数(延べ)	452	411	351	319	227	187	192	295	50	92

[※] 令和2年度はトライアル事業として、「オンライン授業公開講座」を実施(高校生以上を対象とし受講料無料)

② CPD(Continuing Professional Development)講座 継続的専門職能開発プログラム 【令和4年度開講実績】

	名称・講師	開催日程	内 容	受講者数
1	認定看護管理者教育課程サードレベル 講師 熊本県立大学総合管理学部教授中尾富士子 他23名 (学内10名、学外14名) ファシリテーター 熊本県立大学名誉教授 荒木紀代子 他10名 (学内1名、学外10名)	【受講決定】 R4.5.20 【集合研修】 R4.7.25~R4.9.30 【オンライン科目公開講座】 R4.8.23、R4.8.26、R4.9.12 延べ37名受講 【修了証交付】 R4.12.12	本プログラムは、医療機関や地域の看護職のトップマネジャーを養成することを目的としており、受講者が看護管理を実践するにあたって、自信をもって前向きに取り組める機会となる学習プログラムです。平成25年7月に公益社団法人日本看護協会から「認定看護管理者教育課程サードレベル」の教育機関として認定され、平成26年度から開講しています。また、令和2年12月には、「職業実践力育成プログラム(BP)」として文部科学大臣から認定されました。	19名
2	自治体職員向けCPD講座 「デジタル社会と個人情報保護 〜改正個人情報保護法の施行を前に〜」 講師 熊本県立大学総合管理学部教授上拂耕生	【LIVE 参加(対面・オンライン)】 R5.2.22 15:00〜17:00 【オンデマンド配信】 R5.3.1〜R5.3.31	プライバシー権・個人情報保護の国際的動向を踏まえて、プライバシー権と個人情報保護、個人情報と個人データなど基本概念を整理するとともに、個人情報保護法制の歴史、個人情報保護の基本ルールなどをわかりやすく説明し、改正個人情報保護法の施行により現行の個人情報保護法の施行により現行の個人情報保護条例は廃止)に向けて、個人情報保護制度の基本事項を確認・理解していただく。	15名

③ 各種公開講座、バーチャルキャンパス等

本学は、本学の教員等が多様な手段で、県民の生涯学習のニーズへの対応や研究成果の地域への還元を行うことにより、大学全体として地域貢献を推進していくことを目的として、公開講座やシンポジウムを実施しています。ここでは、本学、各学部主催、あるいは他団体等との共催等により開催した各種公開講座等を紹介します。

【各種公開講座 令和4年度開催実績】

名 称	開催日程	内 容	受講者数
【研究成果報告会】 「大学生による地域課題解決プロジェクト成果報告会」	【LIVE配信】 R4.7.30 13:00~16:00 *Youtube限定生配信	総合管理学部 課題解決実践授業「(通称)ガチカリ」で、 学生が4カ月取り組んできた成果を発表。	-
【公開講演会】 「\自由研究 応援イベント/規格外野菜(きかくがいやさい)を学ぼう!」	【対面】 R4.8.22 14:00~15:30	・玉ねぎの皮でハンカチをそめてみよう・規格外野菜あてゲーム・規格外野菜のおみやげあり レシピつき	親子10組
【公開講演会】 「ローカルで思考する建築」 講師:建築家 松山 将勝氏	【対面】 R4.10.2 13:30~15:30	松山氏の実施作品を中心に、九州地区で建築設計を続ける意味、敷地の環境を読み解く建築家の知恵やその過程 の格闘や問題解決の手法について講演いただいた。	78名
【公開講演会】 「噛むことから始める健康講座」 講師:口からの健康づくり歯っぴーかむカム代表 吉良 直子氏	【対面】 R4.11.19 14:00~15:20	食物をよく噛むことは、歯周病ばかりでなく新型コロナや誤嚥性肺炎の予防に繋がり、腸内環境を改善するために美容効果が期待されます。また、唾液分泌を促すことで、万病予防に繋がります。より効果的な健康づくりのために簡単な舌の刺激法(ベロタッチ)と、滋潤作用の高い食べ物で口や体の乾燥を防ぐことをお薦めします。	41名
【特別講座】 持続可能な社会と農業 ①持続可能な社会と農業 ②持続可能な農村計画・農の現場から伝えること〜いつでも どこでも繋がれる時代の発信〜 ②私たちは阿蘇に生きる・持続可能な社会と農業 ③持続可能な農業を目指して・100年先の未来に残す発酵の形 ④南阿蘇での協力隊暮らし・持続可能な社会と農業 ⑤農と食の学びの輪・チャイムが聞こえる牧場で〜人とのつ ながりで酪農の未来を切り開く〜 ⑥水俣と食農教育・農家が目指す「究極のエネルギー地産地消」	【対面】 ①R4.11.10 16:10~17:40 ②R4.11.15 16:10~17:40 ③R4.11.25 12:50~14:20 ④R4.12.2 16:10~17:40 ⑤R4.12.9 16:10~17:40 ⑥R4.12.16 14:30~16:00	持続可能な社会は、「農業」なしには実現しませんが、日本の農業者数はこの10年でほぼ半減しています。そんな中で、希望をもって農業に従事し、持続可能な社会を目指している女性農業者の方12名を講師に迎え、農業の様々な側面を多くの方に知ってもらい、少しでも農業に興味・関心を抱いてもらう連続講座	38名
【研究成果報告会】 「理想の未来は創造できたか II 2022年度 熊本県立大学 髙 橋研究室の挑戦」	【対面】 R5.2.13 ~ R5.2.15	環境共生学部髙橋研究室における学生の卒業設計や、学 生の教育と合わせ実施した受託研究による基本設計な どの計画案等を展示	77名
【公開講演会】 客員教授渡辺満利子氏講演会「命をつなぐ血管を見つめ循環 器系を強化しよう!!」	【オンデマンド配信】 R5.3.1~R5.3.31	血液循環をめぐって、心臓、肺、肝臓、腎臓それぞれに構造、働きを詳しく説明され、血液を通じて、人体の健康がつながっている旨を論じ、腎疾患の特徴と重症化予防方法を講演いただいた。	172名

【球磨川流域圏バーチャルキャンパス 令和4年度開講実績】

内 容	受講方法	受講者数
令和2年7月豪雨による災害からの創造的復興をめざし、球磨川流域圏の文化、歴史、環境をテーマにした無料のオンライン特別講座です。球磨川流域圏の地域としての魅力を発信し、多くの方に本地域に対する理解を深めていただき、復興活動を支援することを目的とした講座内容です。	第1回をR4.9.1に配信、以降毎週1講座合計17講座を配信。R5.2.28	557名

各講座の概要

	タイトル	講師役職	講	師名
1	流域治水の概論	熊本県立大学共通教育センター 緑の流域治水研究室 特別教授	島谷	幸宏
2	グリーンインフラと世界の河川と流域治水	熊本県立大学共通教育センター 緑の流域治水研究室 特別教授	島谷	幸宏
3	命を守ったタイムライン(防災行動計画)、その減災効果を知る〜タイムライン防災とは?〜	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授	松尾	一郎
4	大雨を知り、大雨災害を防ぐ	特定非営利活動法人環境防災総合政策研究機構 理事	村中	明
5	災害と復興まちづくり	熊本県立大学環境共生学部 教授	柴田	祐
6	伝統治水方式と流域治水	熊本県立大学共通教育センター 緑の流域治水研究室 特別教授	島谷	幸宏
7	3億年の歴史から読み解く球磨川流域の成り立ち	鹿児島大学 名誉教授	大木	公彦
8	令和2年7月熊本豪雨で被災した登録有形文化財人吉旅館と芳野旅館の再生	一級建築士事務所 もやいデザイン工房 代表	磯田	節子
9	Eco-DRRと将来の流域治水のあり方	熊本県立大学共通教育センター 緑の流域治水研究室 特別教授	島谷	幸宏
10	球磨川を代表する魚類、アユと河川の自然環境の健全性との関係	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授	皆川	朋子
11	球磨川流域の生き物のくらしとその保全	熊本県立大学 緑の流域治水 学術研究員	一柳	英隆
12	球磨川流域の森林の歴史と現在	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授	蔵治	光一郎
13	ニホンカモシカの保護とニホンジカ、森、そして人間	南九州大学人間発達学部 教授	遠藤	晃
14	球磨川下流域の神社やお堂、伝承にみる水の暮らし	熊本高等専門学校建築デザイン工学科 教授	森山	学
15	中世の球磨地域と相良氏	熊本学園大学経済学部 教授	기기기	弘和
16	酸素マイクロバブルを用いた農作物栽培技術が農業に新たな技術革新をもたらす	熊本県立大学 学長·特任教授	堤袝	俗昭
17	球磨川流域圏の自然・文化資本を活かす~球磨焼酎による地域活性化~	公益財団法人地方経済総合研究所 事業連携部兼研究開発部 部長	宮野	英樹

【その他講座 令和4年度開講実績】

	タイトル等	開催日程	内容等	受講者数	所 管
1	大人のオープンキャンパス【オンデマンド】 講師:①熊本県立大学 学 長 堤 裕昭 ②熊本県立大学 環境共生学部 教 授 柴田 祐 ③熊本県立大学 総合管理学部 准教授 井寺 美穂 ④熊本県立大学 文学部 教 授 鈴木 元	【オンデマンド配信】 ①~④ 配信日 ~ R4.9.30 [LIVE参加(対面・オンライン)] ④のみ R4.9.3 14:00~15:30	①熊本の干潟からアサリが消えた訳とアサリ漁復活のために 求められること R4.8.10配信 ②人口減少時代の地域づくり R4.8.17配信 ③大学生による地域連携活動〜行政学(公共政策)研究室の取 組事例〜 R4.8.24配信 ④細川幽斎と古今伝受 R4.9.3対面・LIVE配信、R4.9.9配信	オンデマンド 76名 対面・LIVE 15名	地域・研究連携センター
2	熊本県立大学生涯学習フォーラム 講師:熊本県立大学 学長 堤 裕昭 他6名	[LIVE参加(対面・オンライン)] R4.9.2 14:00~16:30	①基調講演:「生活の近代化によってもたらされた長寿命と隙間時間、新たな学びの勧め」 ②県立大学生涯学習の歩み ③生涯学習の提供による地域貢献 ④パネルディスカッション ⑤総括	29名	地域・研究連携センター
3	徳冨蘆花サミット 〜もっと知ろう 徳冨蘆花〜	【対面】 R4.11.20 13:00~15:00	本学の半藤英明教授の司会により、米岡ジュリ熊本学園大学教授、平石岳皇學館大学助教、藤川博昭後藤是山記念館館長、冨士 一馬ミネルヴァ書房編集者、本学の羽鳥隆英准教授の5名が明治の文豪・徳冨蘆花の魅力や文学について語り合いました。	110名	文学部 日本語 日本文学科
4	熊本県立大学国際シンポジウム2022/熊本安全保障 セミナー 「台湾をめぐる経済と安全保障〜日本の課題を論ずる〜」 ジェトロ・アジア経済研究所上席主任調査研究員 川上 桃子氏 東京国際大学 特命教授 村井 友秀氏 元陸上幕僚長 岩田 清文氏 熊本県立大学 客員教授 平野 有益氏 平和・安全保障研究所 理事長 徳地 秀士氏 熊本県立大学 理事長 白石 隆	[対面] R4.10.21	①基調講演 「台湾をめぐる安全保障を経済の視点から考える」 「台湾をめぐる安全保障」 ②パネルディスカッション	130名	企画調整室
5	「第7回 国公私3大学環境フォーラム」	[LIVE参加(対面・オンライン)] R4.12.10	本学環境共生学部が主催、福岡工業大学社会環境学部、長崎大学環境科学部の共催(特別講演) 「熊本の干潟に生息するアサリの生態を追って27年、その間に起きた出来事」 熊本県立大学 学長 堤 裕昭(講演) 「EUと動物保護―畜産動物の福祉を中心に一」 長崎大学環境科学部 准教授 本庄 萌 「地域防災に向けた防災アプリ「防災Go!」の展開―熊本県緑川流域・長崎県島原市・福岡県古賀市での検証実験を通じて一」福岡工業大学社会環境学部 准教授 上杉 昌也 「熊本県立大学における水銀研究」 熊本県立大学環境共生学部 教授 石橋 康弘	140名 (内オンライン 参加者11名)	環境共生学部
参考	2023年日台環境科学・技術・管理国際シンポジウム	【対面】 R5.3.27	熊本県立大学、北九州市立大学、台北科技大学(台湾)、中原大学(台湾)において環境に関する研究を実施している教員・学生が集い、国際交流を通した学生教育、環境研究の発展、人的交流を促進するための学術セミナー	73名	環境共生学部石橋研究室

④ 農業アカデミー

本学と熊本県(農林水産部、農業研究センター、農業大学校)、東海大学の3機関が中心となり、産業技術センター、農業関係高校、農業改良普及組織、農業団体、民間会社等県内の農業に関係する多くの機関と連携して、最新の農業知識や農業技術等をテーマとした講座を開催します。県内の意欲ある農業者等、それぞれの新たな学びの挑戦を応援しています。

(2) 地域との連携

① 包括協定

本学と自治体・企業等が、地域における活動や調査・研究、人材育成、産業振興、地域づくり等様々な分野において相互に協力することを目的として協定を締結する包括協定制度を整備しています。包括協定を締結することにより、本学と協定先が連携協力して地域の課題に取り組む体制を構築します。

令和5年5月現在、22自治体、1研究機関、2団体と協定を結び、以下のような取組を実施しています。

包括協定先(22自治体)

小国町、あさぎり町、和水町、菊陽町、天草市
水俣市、宇城市、菊池市
大津町、人吉市、御船町
合志市、玉名市
山都町
八代市、相良村、高森町
五木村
益城町、水上村
上天草市
多良木町 ※



包括協定先(企業·試験研究機関 1研究機関、2団体)

H21	熊本県農業研究センター
H26	一般社団法人熊本県工業連合会
R3	一般財団法人たらぎまちづくり推進機構 ※

※3者協定締結

主な活動

■ なごみの里づくりプロジェクト(和水町特定寄付金事業)

なごみの里協議会と協働してなごみの里山活性化に取り組んでいます。 【これまでの実績】

- ・地域住民と学生が考える和水町空き家の利活用検討
- ・なごみの里の自然を活用した体験型エンターテイメント場の整備
- ・和水町産タケノコを利用したメンマ製造





■ 白亜祭における包括協定自治体フェアの実施

(H29) 5団体(玉名市、天草市、大津町、和水町、相良村)

(H30) 5団体(玉名市、天草市、大津町、和水町、合志市)

(H31) 4団体(玉名市、天草市、大津町、菊池市)

(R2~3) 中止

(R4) 縮小開催のため不参加



② 協力講座

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜し、地域実学主義に基づく教育を学生に提供するための各種取組を行っています。

この取組の一環として、企業の持つ実践的知識を学生に提供する機会を設けることを目的に、大学と企業等とが協定を締結し、協定先の企業等が本学の正規の授業について担当する「協力講座」を実施しています。

協力講座協定

	企 業 名	講座名	
	熊本日日新聞社	マスメディア論(後期15回)	
H19~	九州電力	エネルギーと社会(前期15回)	
	西日本電信電話	情報と社会(前期15回)	

連携大学院協定

	企 業 名
H25~	国立水俣病総合研究センター

③ 地域・行政・産業界との連携

企業や県・市町村への研修講師、各種審議会等への委員派遣等を行っています。また、県や国、企業等からの受託研究・共同研究等を実施するとともに、民間企業等から寄附金を受け入れています。

内 容	令和4年度実績
● 受託研究·共同研究	41件(うち新規31件、継続10件)
●科学研究費助成事業	46件(うち新規11件、継続35件)
● 公募型助成·補助金等	22件(うち新規15件、継続7件)
●教育研究奨励寄附金	7件
●講師派遣等	97件
●各種審議会等への委員派遣	182件
●各種団体からの研究員の受入	13件

*イベント出展(研究成果などシーズ紹介)



R4.11.9 ~ 10 グランメッセ熊本 「先進建設・防災・減災技術フェア in 熊本」

④ 高大連携

大学における高度な教育・研究に触れる機会や学部選択に関する情報を 高校生に提供するとともに、大学教育のより一層の充実・発展を図ること を目的として取り組んでいます。



令和4年度実績	開催日	備考
出張講義	通年	13回開催(うちオンライン開催2回)
高校訪問	通年	3回開催
学内見学	通年	13回開催
Intensive English (英語 夏合宿)	R4.8.18~19(学内授業) R4.8.22~25(学外合宿)	県内高校生3名が参加
「人吉球磨ライジング構想」連携	R4.9~R5.2	人吉高校がR4年度から文部科学省「創造的教育方法実践プログラム」の研究指定を受け、「人吉球磨ライジング構想」と題して、「新時代を切り拓き、域の復興を叶える、創造的な学びの構築」を目指していく中で、「球磨川流域バーチャルキャンパス」を1年生全員がオンライン受講し、学校設定科目「人吉球磨もやいすと」の履修として単位認定する構想

国際交流

大韓民国 祥明大學校 との交流

- 1989(H1).10.17 姉妹提携締結
- 1997(H9). 2.28 単位互換及び授業料相互不徴収を内容とする学生交流協定を締結
- 交流状況 ・短期交換研修生の受入及び派遣
 - ・1年間の交換留学生の受入や派遣
 - ・日本語教員養成課程教育実習生の派遣



アメリカ合衆国 モンタナ州立大学 との交流

● 1997(H 9). 9 熊本県と姉妹都市提携を結んでいる米国・モンタナ州のモンタナ州立

大学との間で学生交流協定を締結

ボーズマン校:1997.9.23締結 ビリングス校:1997.9.25締結

● 1998(H10).5.15 単位互換及び授業料相互不徴収を内容とする学生交流に関する実施

協定を両校と締結

- 交流状況
 - ・約4週間の短期研修生の派遣
 - ・約9ヶ月間の交換留学生の受入及び派遣



インドネシア・ブラウィジャヤ大学との交流の様子

オンラインによりブラウィジャヤ大学との交流イベントを実施(R2.12)

その他の 協定校・機関

- 2003(H15). 7. 9 海洋大學校(韓国)
- 2003(H15).11.28 ワライラック大学(タイ)
- 2005(H17). 4.13 広西大学(中華人民共和国)
- 2006(H18). 6.29 国立台北科技大學(台湾)
- 2011(H23). 6. 1 開南大學(台湾)
- 2011(H23). 6.17 ソウル市立大學校(韓国)
- 2011 (H25): 0.17 プラル同立八字((科目
- 2013(H25). 2.18 カセサート大学(タイ)
- 2015(H27). 9.26 ブラウィジャヤ大学(インドネシア)
- 2016(H28). 1.13 中原大学(台湾)
- 2016(H28).11.29 チャタム大学(アメリカ合衆国)
- 2017(H29). 7.11 海南省疾病予防管理センター(中華人民共和国)
- 2019(R 1).10.21 モンタナ大学(アメリカ)

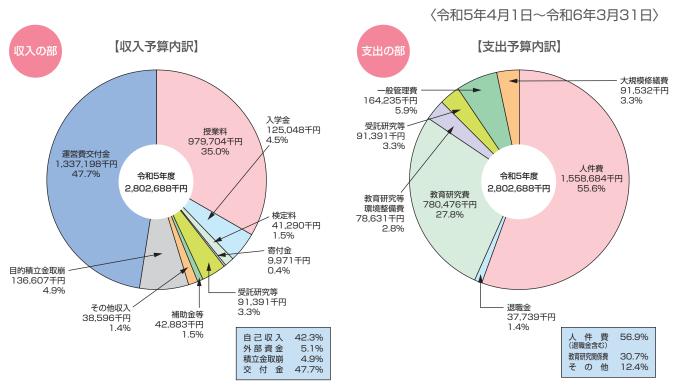
外国人 留学生の 受入 1988(S63)年から、外国人留学生の受入を実施。中華人民共和国、大韓民国からの学部生や大学院生、研究生などが本学で学んでいます。

(令和5年5月1日時点)

				(13140	10/11 [[[]]] [[]
出身地域	学部生	大学院生	研究生	特別聴講学生	計
中華人民共和国	0	8	0	0	8
大 韓 民 国	2	0	0	3	5
ベトナム	0	1	0	0	1
インドネシア	0	3	0	0	3
ミャンマー	0	1	0	0	1
ガ ー ナ	0	1	0	0	1
ス ー ダ ン	0	1	0	0	1
アメリカ合衆国	0	0	0	3	3
アフガニスタン	0	1	0	0	1
計	2	16	0	6	24

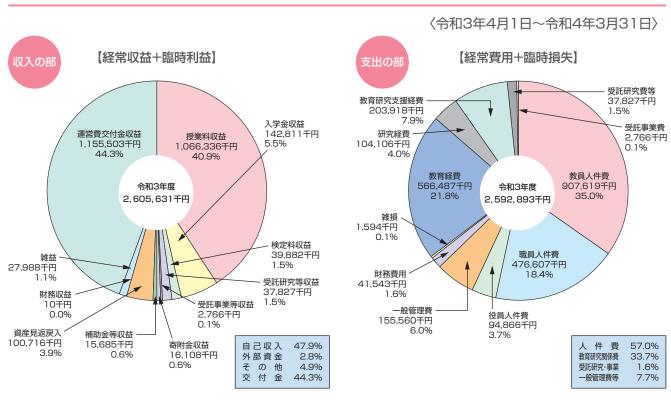
財務状況

(1) 令和5年度予算額



※ 予算総額に占める割合は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

(2) 令和3年度決算額及び決算の概要(令和4年8月29日 熊本県知事承認)



※ 総額に占める割合は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。

令和3年度決算の概要

1 財政状態

●貸借対照表

(令和4年3月31日)

資産の部	В	負債の部		
I 固定資産	13,134,139	I 固定負債	2,568,889	
有形固定資産	13,123,341	Ⅱ 流動負債	866,729	
土地	9,088,942	負債合計	3,435,619	
建物	2,007,166	純資産の部		
その他	2,027,233	I 資本金	12,166,185	
無形固定資産	10,294	Ⅱ 資本剰余金	△ 1,637,244	
投資その他の資産	504	資本剰余金	647,172	
		損益外減価償却累計額 (△)	△ 2,284,128	
Ⅱ 流動資産	1,353,582	損益外減損損失累計額 (△)	△ 288	
現金及び預金	1,309,258	Ⅲ 利益剰余金	523,161	
その他の流動資産	44,324	前中期目標期間繰越積立金	145,955	
		教育研究等環境整備目的積立金	349,591	
		当期未処分利益	27,615	
		純資産合計	11,052,103	
資産合計	14,487,721	負債純資産合計	14,487,721	

2 運営状況

●損益計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)(単位:千円)

経常費用	2,592,893
人件費	1,479,092
教育研究費	874,511
受託研究費等	40,593
一般管理費	155,560
財務費用等	43,138
経常収益	2,605,631
運営費交付金収益	1,155,503
授業料等収益	1,249,029
受託研究等収益	40,593
補助金等収益	15,685
寄附金収益	16,108
その他収益	128,714
経常利益	12,738
臨時損失	△ 0
臨時利益	0
目的積立金取崩額	14,877
当期総利益	27,615

3 資金収支の状況

●キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

(1512-1-0)3-1012-1-0012	(11=113)
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	639,368
業務活動による支出	△ 2,130,504
業務活動による収入	2,769,871
Ⅱ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 221,961
固定資産の取得による支出	△ 221,971
固定資産売却及び利息受取りによる収入	10
Ⅲ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 150,710
リース債務償還等による支出	△ 109,167
利息の支払いによる支出	△ 41,543
Ⅳ 資金増加額 (I+II+III)	266,697
V 資金期首残高	1,042,561
VI 資金期末残高(IV+V)	1,309,258

4法人運営に関する住民等への負担額

●行政サービス実施コスト計算書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

I 業務費用	1,230,570
(1) 損益計算書上の費用	2,592,893
(2)(控除)自己収入等	△ 1,362,323
Ⅱ 損益外減価償却等相当額	116,850
Ⅲ 損益外除売却差額相当額	0
IV 引当外賞与増加見積額	△ 22
V 引当外退職給付増加見積額	6,759
VI 機会費用	21,677
VII 行政サービス実施コスト (I+II+III+IV+V+VI)	1,375,836

5 利益処分の内容

●利益の処分に関する書類(案)

(単位:円)

Ι	当期未処分利益 当期総利益	27,615,146	27,615,146
П	利益処分額 教育研究等環境整備目的積立金		27,615,146

6 予算の執行状況

●決算報告書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	予算額	決算額	決算-予算
収入	2,965,542	2,822,595	△ 142,947
運営費交付金	1,507,617	1,480,658	△ 26,959
自己収入	1,277,246	1,305,117	27,871
目的積立金取崩	180,679	36,820	△ 143,859
支出	2,965,542	2,740,378	△ 225,164
教育研究経費	2,164,941	1,970,951	△ 193,990
一般管理費	764,935	727,479	△ 37,456
受託研究費等	35,666	41,947	6,281
収入一支出	0	82,218	82,218

- 注)各項目の計数は、表示単位未満を四捨五入したものであり、その内訳は合計と一致しない場合があります。
- 注) 損益計算書上の当期総利益(27,615千円)と決算報告書上の収支差額(82,218千円)とは一致しませんが、これは、発生主義(損益計算書)と現金主義(決算報告書)との違いが要因です。

大学施設





■本部棟

- 2 中ホール
- 日 キャリアセンター
- 4 サブアリーナ
- **ID CPDホール**
- 6 アリーナ
- 7 大学会館
- ᠍ 講義棟 1 号館
- 9 小ホール
- 10 文学部棟
- 11 環境共生学部西棟
- 12 環境共生学部北棟
- 18 環境共生学部南棟
- 14 構造実験棟
- 15 グローカル棟
- 16 図書館
- Ⅲ 講義棟2号館
- 18 大ホール
- 19 総合管理学部棟
- 20 第1クラブ室
- 21 第2クラブ室
- A キャンパスプラザ
- **B** アカデミックプラザ

- プール
- 月出フィールド
- 💪 障がい者駐車場

728台 7,856m²

熊本市東区月出3丁目1-100

87,948m² 41,622m²

450台

所在地	熊本市東区小峯3丁目2613-1
面積	52,898m²
建物延床	面積(小峯クラブハウス) 684m²
施設	野球場・サッカー場・ ラグビー場・陸上競技場

●土地及び建物

土地

(単位:m²)

	区	分		面	積
校	舎	敷	地	80	,092
運 動 用 地 (月出フィールド) 小峯グラウンド)				60,754 (7,856) 52,898)	
その他(教員住宅用地)				2	,484
合			計	143	,330

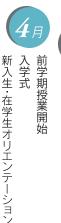
建物

(単位:m²)

		(年112.1115)	
	区 分		延床面積
1	本 部	棟	1,502
Ω.	中ホー	ル	467
3	キャリアセンタ	_	513
4 5	サブアリーナ・CPDホ	ール	1,348
6	ア リ ー	ナ	2,550
7	大 学 会	館	1,190
8	講義棟1号	館	1,898
10	文 学 部	棟	3,108
11	環境共生学部西	棟	6,318
12 13	環境共生学部北棟·ī	南棟	5,576
14	構造実験	棟	540
15	グローカル	棟	1,550
16	図書	館	3,847
17	講義棟2号	館	2,737
18	大 ホ ー	ル	1,500
19	総合管理学部	棟	5,583
20	第1クラブ	室	456
21	第2クラブ	室	507
	小峯クラブハウ	ス	684
	温	室	128
	緑の流域治水研究室実	験棟	148
	そ の	他	156
	小	計	42,306
	教 員 住	宅	2,948
	合	計	45,254

大学暦

能本県立大学の1年







オープンキャンパス

後学期授業開始 前学期試験

9月前学期終了 夏季休業

*10*_周

白亜祭(学園祭)

冬季休業開始

大学入学共通テスト 冬季休業終了 授業開始

般入試(前期) 後学期試験

般入試(後期) 春季休業 卒業式

本

立

熊本県立大学への交通アクセス



約4.3km(約15分) 益城熊本空港ICから 約 4km(約10分) 阿蘇くまもと空港から 約 13km(約25分)

駅から 寺駅から

約8.2km(約25分) 約4.2km(約15分)

■桜町バスターミナルから

番市バス「免許センター」行([G1-5]表示) 「日赤病院前」バス停下車(約30分)。 そこから徒歩1分 ・都市バス「長嶺小学校」行([G1-4]表示)

「日赤病院前」バス停下車(約30分)。そこから徒歩1分

都市パス[日赤病院・長嶺団地」行([H3-1]、[H1-1]、[H2-1] 表示) 「県立大通り」又は「県立大学前」パス停下車(約40分)。そこから徒歩1分

・バスにより桜町バスターミナル下車(約10分) ・市電により辛島町電停下車(約10分)、その後桜町バスターミナルまで徒歩約2分

■JR新水前寺駅方面「水前寺駅通り」バス停

都市パス「日赤病院・長嶺団地」行乗車([H2-1]、[H3-1]表示) 「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

■JR水前寺駅方面南口「水前寺駅前」バス停から

都市バス「日赤病院・長嶺団地」行乗車([H2-1]表示)

「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

■JR水前寺駅方面北口「熊高正門前」バス停から

都市バス「日赤病院・長篠団地」行乗車([H1-1]、[H4-1]表示) 「県立大通り」バス停又は「県立大学前」バス停にて下車(約20分)。そこから徒歩1分

■ 熊本県立大学シンボルマーク



平成6年4月、本学はそれまでの熊本女子大学から、 男女共学に移行し大学名称も「熊本県立大学」に変更し て、新たなスタートを切りました。同時に、このシンボルマークを始めとする一連のデザインシステムも開発。

製作者は、札幌冬季オリンピック公式マークや沖縄海 洋博公式マーク、総理府政府広報シンボルマークなどを 制作した永井一正氏です。

このシンボルマークは、「時代と地域の要請に応える大学」をイメージ。「黒」は、地 域と大学の伝統、「赤」は、世界に向かって力強く伸びていく先進性と若々しい躍動感 を表しています。

■ 大学基準適合認定マーク



本学は、令和4年度 に公益財団法人大学基 進協会の認証評価を受 け、同協会の大学基準 に適合しているとの認 定を受けました。



